

令和八年度個別学力検査問題(国際資源学部、教育文化学部)

国語

前期日程

注意事項

- 一 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 二 この問題冊子は、八ページあります。解答用紙は一枚です。問題は二題あります。すべてに解答しなさい。  
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの乱丁・落丁および解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 三 監督者の指示に従って、解答用紙に受験番号と氏名を記入しなさい。
- 四 解答は、解答用紙の該当欄に記入しなさい。
- 五 配付された解答用紙は、持ち帰ってははいけません。
- 六 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

— 次の文章は、山田圭一『フェイクニュースを哲学する―何を信じるべきか』(岩波書店、二〇二四年)の序章の一部と終章の一部である(一部改変)。これを読んで、後の問に答えなさい。

# 本文省略

# 本文省略

# 本文省略

# 本文省略

# 本文省略

# 本文省略

(注) \*アナナーキズム……無政府主義。ここでは、情報に関する権威や秩序が失われた状況のこと。

問一 傍線部Aに「それが社会のなかで広まることにより生じる問題」とあるが、筆者が述べているフェイクニュースの問題のうち、誤っているものを一つ選択して、記号で答えなさい。

- (ア) 真実ではない情報が広まることで、実際の被害が生じる。
- (イ) フェイクニュースによって従来の知的権威への依存が強まる。
- (ウ) フェイクニュースによって人々が真理への関心を失っていく。

問二 傍線部Bに「民主的な社会における意思決定」とあるが、この意思決定のプロセスと情報の正確さとの関係について、筆者はどのように述べているか。本文に即して説明しなさい。

問三 傍線部Cに「嘘をつく人とでたらめを言う人とは、後者のほうがより問題が大きい」とあるが、それはなぜか。本文に即して説明しなさい。

問四 傍線部Dに「ロスト真実(lost truth)の社会」とあるが、これはどのような社会のことか。「ポスト真実の社会」との違いがわかるように説明しなさい。

問五 傍線部Eに「論破」とあるが、筆者はなぜこれが問題だと述べているのか。「クリティカルシンキングを行う目的」という言葉を含めて説明しなさい。

問六 傍線部Fに「本来の懐疑的精神とは異なる」とあるが、それはどういうことか。本文に即して説明しなさい。

問七 傍線部Gに「急ぎすぎないこと」とあるが、この筆者の提案に対してあなたはどうか考えるか。具体例を挙げながら、二〇〇字以内で述べなさい。

— 次①～⑤の傍線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 無用のチヨウブツ。
- ② もめごとのチユウサイに入る。
- ③ 混乱した事態をシユウシユウする。
- ④ 油断して危機にオチイる。
- ⑤ 友だちと本をカシカリする。